※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	音楽史	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	Joy of music（教育芸術社）						
副教材等	音楽史を学ぶ　（教育芸術社出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

音楽を専門的に学ぶ音楽科生徒にとってそのクラシック音楽が発展してきた歴史を知ることはとても重要です。なぜその時代にそのような音楽が生まれ、今もなお演奏されているのか。作曲家同士が歴史を通じてどのような影響を与えあっているのか。音楽には必ずそれが生まれた社会的な背景が存在します。幅白い観点から音楽を捉える態度を身に着けて、自身の演奏に活かしてほしいと考えています。
考査は年２回（前期中間・後期中間）に実施します。

2　学習の到達目標

音楽史の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
【知識及び技能】音楽史に関する基礎的な知識を理解する。
【思考力・判断力・表現力等】音楽史で学んだ知識をもとに、様々な音楽的事象の背景や関係性について思考・判断し、自分の考えを表現する力を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】音楽史で学んだことを表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・音楽史に関する基礎的な理論について理解している。【知識】	音楽史で学んだ知識を活かして、様々な音楽的事象の背景や関係性について、自ら思考し、自分の考えを表現しようとしている。	音楽史に関する基礎的な事柄を理解することで音楽文化を尊重し、主体的、創造的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	古典派の音楽	・前古典派の音楽 ・ハイドンの作品と生涯 ・モーツァルトの作品と生涯 ・ベートーヴェンの作品と生涯 ・古典主義音楽の確立とその意義	a:古典派の音楽史に関する知識を持ち理解している。 b:古典派の音楽史に関する基礎的な知識を活かして、その時代の音楽と社会の関係について考えようとしている。 c:学習内容に関心を持ち、演奏に活かそうとしている。	定期考査	定期考査	ワークシート 観察
	ロマン派の盛期	・ドイツ・ロマン主義の作曲家による作品の特徴 ・ドイツ・ロマン主義の作曲家の生涯	a:ロマン派の音楽史に関する知識を持ち理解している。 b:ロマン派の音楽史に関する基礎的な知識を活かして、その時代の音楽と社会の関係について考えようとしている。 c:学習内容に関心を持ち、演奏に活かそうとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート	ワークシート 観察
後期	ロマン派の終期	・国民楽派、後期ロマン派の作曲家と作品の特徴 ・国民楽派、後期ロマン派の作曲家の生涯	a:ロマン派（終期）の音楽史に関する知識を持ち理解している。 b:ロマン派（終期）の音楽史に関する基礎的な知識を活かして、その時代の音楽と社会の関係について考えようとしている。 c:学習内容に関心を持ち、演奏に活かそうとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート	ワークシート 観察
	近代・現代の音楽、日本音楽	・印象主義音楽 ・20世紀の音楽 ・前衛的な音楽 ・雅楽、箏曲などの我が国の伝統音楽 ・西洋音楽を学んだ日本人作曲家の生涯と作品	a:近現代の音楽史に関する知識を持ち理解している。 b:近現代の音楽史に関する基礎的な知識を活かして、その時代の音楽と社会の関係について考えようとしている。 c:学習内容に関心を持ち、演奏に活かそうとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート	ワークシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度